

高齢者の骨折・入院は命取りに…！

年をとると目が見えにくくなった。耳が聞こえにくくなった。
更に足腰が弱り骨ももろくなり、ちょっとした段差にもつまづくようになり、
転倒、骨折してしまうケースが多い。



そして、認知症がある高齢者が病院に入院となればベッドからの
転落転倒の危険性も高いからと、書類にサインをさせられ
抑制ベルトに縛られ、身動きが自由にできなくなる。
そんな日が続くと、食欲がなくなり栄養状態も悪く
すぐに床ずれにもなり更には、認知症症状も進む。



病院で骨折は治っても家族の介護は大変になる。
「家では介護ができない…」と病院の相談員に言うとすぐに
施設入所を進められる。



施設入所も金持ちならば、すぐに入れる有料の老人ホームも見つかるだろう。
しかし、特別養護老人ホームは多くの待機者で、到底すぐに入所することなんてできない。
また、施設があっても今や人材不足で100%稼働できている施設は少なく、利用者を受け入れ
られないようだ。

介護保険のサービス利用中に利用者が転倒でもしたら、施設側が介護するのが当たり前だと
主張する家族さえいるという。
施設側はどうしても手のかからない、介護しやすい利用者を選ぶのが現状だ。

「ケアホーム希望」を利用している 95歳のHさんは、目が悪く自宅の
台所で、ない椅子に座ろうとし転倒し、右上腕骨を骨折、救急車で
病院に搬送された。骨折の手術は問題なく終了したが、
術後は痰がからみ、嚥下も悪くなった。ミキサー食になり、
水分にはトロミを付けて摂取しているため、食事量が低下、床ずれも悪化した。



難聴でコミュニケーションが上手く図れず、認知症でもあるため、転落や転倒する可能性が
高いと、ベッドや車椅子でいる時まで抑制された。

「通い」のサービスを利用していた時には『オ～イ！ オ～イ！』と元気だったHさんが、
一まわりも二まわりも小さくなってしまっていた。

以前、家族の介護疲れから「家でもよく転んでいるんだから転倒しても仕方ないので預かって欲しい…」と、週6日「通い」のサービスを利用し、「泊まり」のサービス利用時には
1日5名の泊まりの定員人数を減らして、夜間も転ばないようにと職員が付きっきりで「泊まり」
のサービスを利用していたところだっただけに… とても残念だ。

そして、**高齢者の転倒後のリスクの大きさを改めて痛感する！**

夏の脱水予防に！

『ケアホーム希望』の過ごし方は…

かき氷 や ゼリー

スイカ・とうもろこしを食べます！



かき氷…
冷たくて頭の芯まで
ガンガンする！！



お手伝い
しますよ～



これは でかい
スイカ だなあ～



食欲の夏です！

尊いいのちをもっとみんなが理解しよう…

相模原の障がい者施設で戦後最悪となる殺傷事件が起こり、元介護職員が入所者を次々に刺し、19人が死亡。26人が負傷するという悲しいニュースがあった。



『あのね
自分にとって 一番大切なものは 自分のいのちなんだよ
だから
すべての他人のいのちがみんな大切なんだよ』

今後二度とこのような悲しい事件が起きないことを願います。ご冥福をお祈りします。